

【特集】学会統合，新学会成立を記念して

会員数の状況について

江夏 由樹
木崎 翠
大原 盛樹

中国経済学会

中国経済学会は2002年に会員数325名で設立された。その後，毎年20－40名程度の入会者を迎えていたが，他方，退会者の数も少なくなかった。退会理由の多くは会費未納であった。退会者数は2010年までは毎年20名以上を数えていたが，2011年以降は数名を数えるに過ぎなくなった。その結果，設立後は頭打ちであった会員数は，2011年以降は増加基調となり，2014年の中国経営管理学会との統合直前には394名となった（図1）。日本経済学会連合に加盟している63の各学会の会員数と比較しても，その数に遜色はない。なお，設立間もない時期の入会者の半数以上は現在も学会に所属している。そうした研究者が今も学会活動の重要な部分を担っていることは，本学会が安定的に運営されてきたことを示している。

2014年の会員の内訳は，大学教員159名，社会

人研究者60名，大学院生74名，海外会員65名，その他34名である（図2）。本学会が大学教員を中心に設立されたことを考えると，会員のなかで，大学教員の数が多いことは自然であると言えよう。同時に，現在，大学院生，社会人研究者の数が多いことにも注目できる。本学会が中国経済の研究推進，その情報交流を目指していることから，中国における経済・企業活動，その研究に携わっている公的機関・民間企業に所属する研究者等が本学会に入会し，その活動に積極的に参加していることは心強い。そうした社会人研究者に広く門戸を開放する試みとして，例えば，情勢分析研究会の活動などは大きな成果を挙げてきた。他方，次世代の研究者である大学院生の参加も年を重ねるごとに増加してきたことも大事である。実際，本学会設立後，新入会員のかなりの部分は大学院生であった。毎年開催される全国大会，東西の学術研究会等

図1 中国経済学会会員数の推移

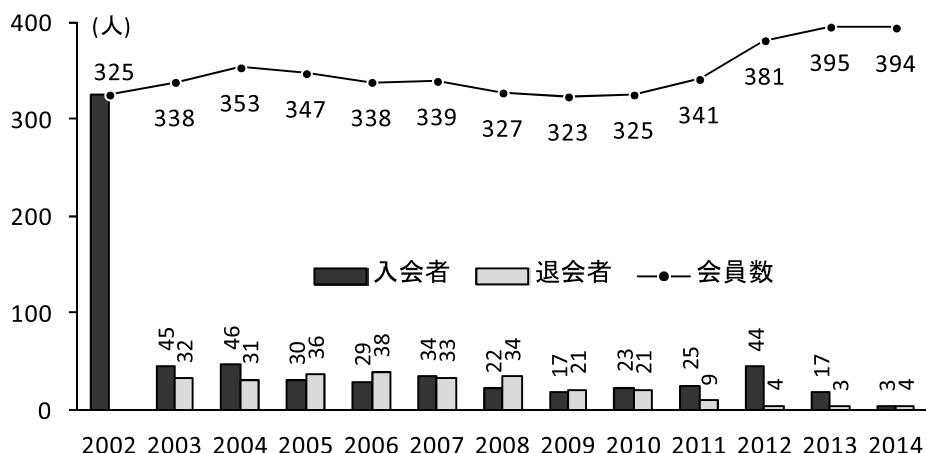
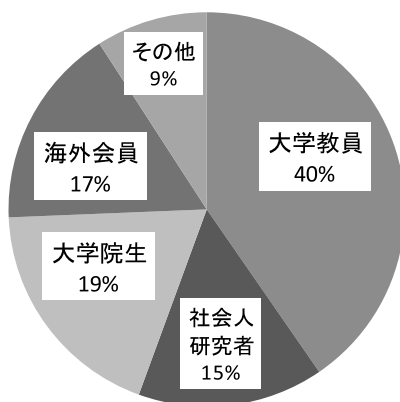


図2 中国経済学会会員内訳

(2014年4月現在, 394人)



で報告, その成果を『中国経済研究』に投稿・掲載する機会が提供されていることは, 大学院生にとって大きな魅力となっており, これが大学院生の入会を促す大きな要因となっている。また, 海外会員の数が多く点も見逃せない。海外会員は会誌の送付は受けないものの, 会費の納入は免除されている。その会員は, 中国をはじめとする海外において本学会の活動を支える役割を果たしている。

今後, 両学会の統合を契機として, 本学会の研究活動を一層充実し, そこから新たな会員を獲得, 会員数の増加を図っていくことが必要である。

中国経営管理学会

中国経営管理学会は2000年5月に会員数約100名で設立された。設立のイニシアチブをとったのは, 愛知県を中心とする中部地区において必ずしも中国研究を専門としていない経営系の研究者であったという経緯を持つ。自動車, 機械, 繊維などの製造業が集積する中部地方で活躍する経営研究者が, 日本の産業界の急速な中国展開に引き込まれるように自然と中国に関心を寄せた結果だと考えていいだろう。本学会は研究対象を中国の経営管理や企業研究に限定したユニークな学会であったが, 実際には日本のビジネス界と中国との関わりが常に中心的なテーマの一つであり, 中国研究者以外の幅広い

専門家が集まる貴重な場であった。なお中部地方の会員はその後重要な役割を果たしており, 毎年の研究大会と秋季研究集会およびそれに付随して開催される理事会は, 東部, 中部, 西部の3地域で持ち回りで行われてきた。

設立後の数年は入会が活発で会員数が順調に増えて行った。新規入会の中心は大学院生, 特に中国人の大学院生であり, 多くが研究発表の機会を求めての入会であった。特に2007年前後の数年は入会者が多かった。ただし, その後, 少なくとも会員が学会活動を休止し, 会費も未納を続けることになった。事務局は必ずしもそれらの会員の動向を厳密にフォローしたわけではなかった。学会のお知らせが転居先不明で事務局に戻ってくる量が増えると, それらの会員情報を整理し, 事務的に退会者扱いとなる者が急増する, ということが2006年と2014年におきている(図3)。しかし全体的には, 設立以来, 2010年に入る頃までは入会は活発であった。中国経済学会との統合が検討されるようになったのは2011年である。

中国経済学会との統合直前の段階での159人の会員の内訳は, 大学教員が48% (77人), 社会人研究者4% (7人), 実務家13% (20人), 大学院生18% (28人), 海外会員16% (25人), その他1% (2人)であった(図4)。実務家は企業や業界団体等に所属しながら調査や研究にも携わっている方々だが, これらの人々が会員に

占める割合が比較的大きい。この学会の大会では中国や日本の企業経営者や中間管理職者、技術者等を招聘して対話を行うことが恒例の催しとなってきたが、それも合わせて、現場色が濃いことがこの学会の大きな特色であったと言えるだろう。

なお両学会の統合時点で両学会に同時に所属した会員は44人で、中国経営管理学会会員数159名の27%に相当する。基本的にはそれぞれの学会は独自の会員を擁していたと考えることができる。

図3 中国経営管理学会会員数の推移

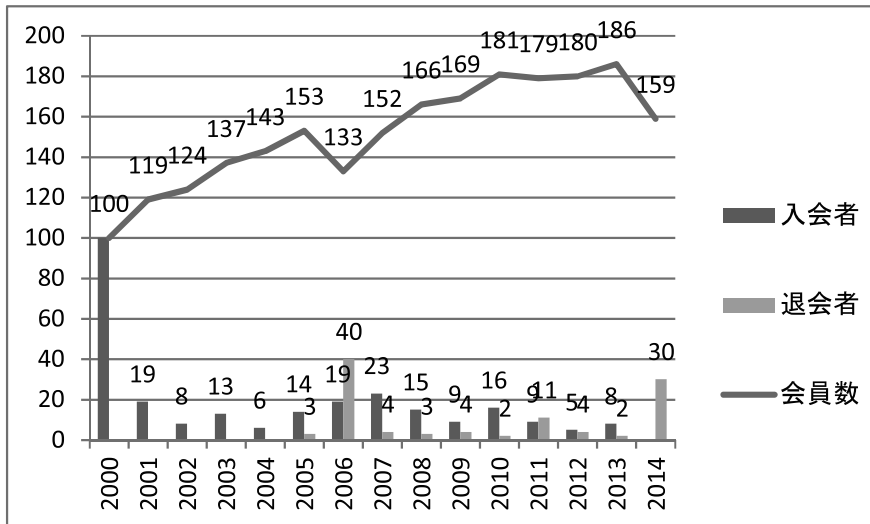


図4 中国経営管理学会会員内訳
(2014年4月現在、159人)

